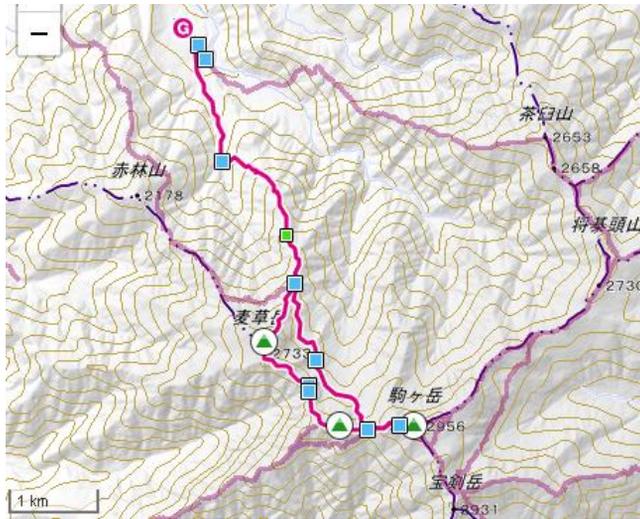


月度(例会)個人山行報告書		報告者 福岡 報告日 11/10	参加メンバー	CL 鈴木 館谷 福岡
山域 中央アルプス 山名 木曽駒ヶ岳	山行日 2022/10/29-30			
山行目的 冬山合宿の下見		コースタイム(天候:天気図記号)		

配布先  
 集会:12  
 山行:1  
 リーダー  
 原紙:集  
 会担当者

ルート図(地図を見て正確に)



1日目;快晴  
 05:00刈谷  
 07:43コガラ登山口  
 08:17幸川渡渉地点  
 10:22七合目避難小屋  
 11:19麦草岳  
 12:01アルミ2連梯子  
 12:08牙岩  
 12:56木曽前岳  
 13:07玉乃窪山荘  
 13:26頂上木曽小屋  
 13:33木曽駒ヶ岳  
 13:54頂上木曽小屋  
 14:07玉乃窪山荘  
 14:46八合目水場  
 15:28七合目避難小屋  
 泊

1日目;快晴  
 06:47七合目避難小屋  
 08:11幸川渡渉地点  
 08:33分岐  
 08:37コガラ登山口  
 12:30刈谷

〈山行報告〉

晴天の中、登り始める。登山口の駐車場は10台ほどしか車が止まっておらず、静かな山行となりそうだ。気温も低く下草に霜が降りている。今回は避難小屋泊のためテントがなく、心なしか装備も軽い。登り初めはなだらかで、一部舗装された林道を進む。しばらくして渡渉ポイントとなり、水量も少なく問題なく渡る。渡渉後は樹林帯の尾根を登るルートとなり、登るに連れ気温が下がる一方で、体に熱が入り各自レイヤ調整。所々日が入る場所もあり、紅葉した落ち葉と相まって晩秋の趣きも感じる。登っていくと日陰部分に数日前に降った雪がだんだんと現れて来る。そのうち避難小屋に到着し、泊まりの装備をデポ、随分荷物が軽くなった。避難小屋は非常に良く整備され、薪ストーブも完備されており、今夜は快適に過ごせそうだ。小屋付近では氷が張っている部分もあり、気温が氷点下であることがわかる。

各自準備を整え、麦草岳へのルートを進む。日陰が多く雪がわずかに残っている部分が多かったが、チェーンスパイクは必要なさそう。木々も所々開けて来て、左奥には木曽駒ヶ岳、右には御嶽山や乗鞍岳が徐々に見えるようになって来た。麦草岳だけまではルートもよく、順調に登頂し、いまから向かう縦走路を確認する。ここからは山岳地図上で破線ルートとなるため、気を引き締めて進む。

麦草岳だけからのくぐりは急斜面を踏み固められたステップで降りる。笹も落ちており滑らないように慎重に降りる。三本爪の形をした牙岩が遠くに見えるが、牙岩までのルートは薄い登山道のアップダウンと、やせ尾根、梯子でなかなかペースが上がらず苦労した。牙岩からはトラバースルートと木曽前岳へ登るルートがあるが、トラバースは切れ落ちており冬合宿で使うことはないため、木曽前岳へ登るルートを選択。

確認  
(リーダー)  
 鈴木  
 作成  
(報告者)  
 福岡

〈リーダー所見〉

天気に恵まれ気持ちいい山行だった。全体的にコースも整備されており、冬山初心者でも十分に楽しめるコースである。しかし、麦草岳-牙岩間は、切落ちた部分等あるので合宿の参加者のレベルに合わせてコース設定する。薪ストーブの使える避難小屋での宿泊は、冬山合宿としては快適なので多くの参加者を期待したい。

牙岩から木曾前岳への登りも一部雪が残っていて登りにくい箇所にも苦労しながらも、山頂へ到着。ここからは一般ルートと合流し、整備されたルートで一息つく。進んできた縦走路を振り返りながら、ほどよい緊張感と好天で周囲の山々を楽しみながら歩けたことに感謝。

縦走中に見えた木曾駒ヶ岳は切り立った山様が凛々しく、千畳敷方面からのイメージと全く異なっていたため新鮮であった。最後の登りは緊張感のあった縦走の反動か疲れもありペースは上がらなかったものの、無事山頂に到着。山頂は木曾駒ヶ岳らしく賑わっており、各々がのんびり過ごしているのが印象的だった。

休憩後、下山開始。下山は玉ノ窪山荘から分岐して福島方面へ直接降る。よく整備されたルートだったが、日陰部分には雪が残っており、足先に段々と寒さを感じながらだった。8号目看板付近にある水場で夕食用の水を調達しつつ、避難小屋に到着。

避難小屋では明日木曾駒ヶ岳に登られるパーティと一緒に、ありがたく薪ストーブで暖をとりながらくつろぐ。夕食はシェフ館谷の特製きのこと鍋、雑炊に加え、なんとデザートにミカンもあり、おなかも暖かくなった。夜が更けてきたが、小屋の中は暖かく非常に快適で、一方で、外に出てみれば晴天の中、天の川が頭上に流れており、満足した一日を振り返る。

2日目は避難小屋から順調に登山口まで下山。昨日の朝よりも霜が降りており、快晴の中で冷え込んだことがわかる。下りながら途中右手に切り立った木曾駒ヶ岳を眺め、途中からは遠方に北アルプスの望むことができた。また、登山口付近では紅葉がきれいに色づいており、これから来る冬の準備を進めているようであった。

ご一緒した鈴木さん、館谷さん、楽しい山行をありがとうございました。



